

さくら第507号

令和 4年 3月

# さくら

発行所 さくらそろばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7: Tel51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp

肥料

あのとときの  
ありの苦しみも  
あのとときの  
ありの悲しみも  
みんな肥料に  
なったんだなあ  
いふんが自分  
なるため

みつを

## 『負ける理由と準備』

『勝に不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし』と野球監督であった故野村克也氏が近著「人は変われる」のなかで述べています。

4球団で監督をされてきた野村氏はその経験の中で、勝てないと思った試合でも相手チームが思わぬエラーを重ねたりミスをおかして自滅するなど不思議な勝ち方をした。

半面、負けた試合には負ける要素がいくつもあり、負けるべくして負けたと言います。

珠算競技大会でも、優勝できないと思っていた選手が表彰式で名前を呼ばれ本人は驚きながらも不思議な顔です。負けた原因は何だろうかとその指導者に訊ねると1週間前から体調不良で練習ができず、当日は熱もありどうにか出場だけはできたとのことでした。

検定試験は他人との競争ではなく自分との闘いであり、審査基準をみれば誰もが合格します。練習ではいつも合格点を出していた人がまさかの不合格になることがよくあります。

なぜだろうかと成績内容をみて本人に感想を訊くと、塾での練習とちがい、広い会場で知らない人ばかりで不安になり落ちつかなかった。割り切れないので何度も計算して時間なくなりました。2級みとり算でマイナス問題が一つもなくあせってしまった。かけ算をわり算にしてしまったなど、考えられないミスが重なりできなかったなどと話します。

ふだんの練習で指摘されたことをただ何となく聞いていたり、自分はこのようなミスをしがちだから注意して直そうという目的意識がうすいと同一失敗をくり返しやる気がうすれます。

野村克也氏は同著のなかで次のようなことも述べています。『練習はそれ自体が目的ではない。試合のために行うものだ。であれば、試合を想定して行ってはじめて意味がある。自分なりに課題を持って取り組んで、はじめて進歩と成長がある』と。

また『練習のための練習ではダメだ。試合を想定した練習を』とプロ野球日本ハムファイターズの沖縄キャンプを視察していた新庄剛志監督があるテレビ番組の中で話していました。

いつも言っています。席についたら問題集やプリントを出しすぐに指ならしです。見取算1問でもいいから指を動かします。暗算5問でも直ぐに始めるのです。そのための教材はカバンに入っているから1分以内に練習開始と。

自分で考えて行動するクセをつけないと、指示あるまで何もできない人になります。

練習中によく言われる事を忘れずに、試験中の気持ちで真剣に計算すれば実力がつきます。1時間教室にすることが目的ではなく1時間にどれだけ身につく練習をするかです。

そしてまた何事も準備が大事です。芯の先が無くなり書くとかすれたり、折れた芯ばかり入っているペンケースでは困ります。

準備といえば私は、学校支援ボランティア授業に初めて出かける小学校へは、前もって場所と道順、渋滞の様子などを確認するため、授業開始に合わせた時間帯に出かけます。雪の降り具合で所要時間や混み具合も大きく違うのでかならず事前に調べます。

検定試験では春江町商工会館、福井商工会議所、珠算会館を使用するので受験者は前もって場所の確認を必ず行ってください。

受験票と塾報さくらや教室のボードなどに場所と時間を書き試験数日前には本人に直接話すのですが、試験会場をまちがえた、開始時間を忘れたという人が毎回います。家族で再確認し余裕をもって試験に臨むことです。

合格できないのにはそれ相応の原因があります。ふだんの練習を全力で、いっしょうけんめい考えて続けることで実力がつきます。